

JA標津管内では、後継者不足、不慮の事故等により、酪農家戸数が減少する中、今後においても地域の生産を維持拡大すべく「人」「牛」「草」に対しそれぞれ実効性のある対策を計画しており、特に「人」に対しては、後継者育成対策・新規就農者をはじめ、雇用労働力や酪農ヘルパーなど多様な人材確保へ向け地域のマンパワーを減少させない取り組みとして労働力状況調査やデータベースの作成・各種雇用フェアへの出展に加え、動物関連学校との連携等を行っています。当協議会では労働力確保への環境整備と持続可能な農業の確立と地域づくりを実践します。

事業実施主体構成員

JA標津管内生産者（北海道指導農業士・北海道農業士・雇用を必要とする生産者）標津町・羅臼町・JA標津・根室農業改良普及センター・(株)オーレンス総合経営

実績値（目標値）

- ①労働力受入担い手農家数：45戸（90戸）
- ②労働環境に満足している被雇用者の満足度：－％（6名）

令和2年度取組み内容

| | |
|---|--|
| <p>ア 労働力の需給状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標津町緊急雇用窓口創設（コロナ対策）に伴い、労働力の不足状況等の調査を実施した。 →48戸が労働力が必要 | |
| <p>イ 労働力の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種雇用フェアや相談会にオンライン参加（新・農業人フェア・新規就農相談会・帯広畜産大学相談会） ・ネット求人広告による募集 →第一次産業産業ネット14戸利用 | |
| <p>ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道立農業大学校と帯広畜産大学の長期農家実習受入れについて酪農家とマッチング →5名受入（農繁期の労働力にもなっている） ・農協ホームページやネット求人広告からの応募に対してのマッチング →10名（酪農スタッフ） | |
| <p>エ 農業の「働き方改革」への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採用力向上と働き方の意識改革を目的としたセミナーの開催 →10/30 札幌エージェンツ株式会社 ・しべつデイリースクールの開講 →酪農専門基礎知識を学ぶ事を目的として後継者・酪農スタッフ・JA若手職員を対象 | |
| <p>オ 他産地・他産業との連携による労働力確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所との連携 →酪農作業の軽作業を担う人員としての派遣（牛舎や搾乳室の清掃・仔牛ハッチの除糞等） ・土木建設業者との連携 →ホクレン実証農場にて土木建設作業員4名が酪農ヘルパーの研修を受講 | |

課題と令和3年度の実施内容

| | |
|---|---|
| ア 労働力の需給状況の把握 | |
| 【課題】 地域内における求職者の状況把握が必要である。また、説明会等を継続することで、酪農の魅力発信や他産業従事者との連携を図りたい。 | 【次年度の取組み】 ・羅臼町酪農体験モニター事業 → 町民への酪農の仕事説明会と地域内労働力の調査。 ・長期的労働力の必要状況の調査 → 農協5カ年計画策定に向けたアンケート調査 |
| イ 労働力の確保・育成 | |
| 【課題】 地域外の労働力確保に向けた取り組みの強化として、各種雇用フェア等の出展や酪農体験・インターンシップ受入れ等を計画しているが、コロナの感染予防対策を行いながら慎重な対応が必要である。 | 【次年度の取組み】 ・各種雇用フェア等への出展（オンライン） ・ホームページやネット求人広告を利用した人材募集（農協HP・第一次産業ネット） ・農業及び動物関連学校との連携 ・酪農体験やインターンシップ受入れ ・しべつデリースクール（8期生）の募集と開講 |
| ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化 | |
| 【課題】 労働力データベースの再構築が必要である。酪農作業を細分化した要望調査を行い、パート・アルバイトの採用をしやすくする事が課題である。 | 【次年度の取組み】 ・農協5カ年計画策定に伴う酪農家への意向調査を実施しデータベースの再構築を図る ・ホームページやネット求人広告からの応募に対するマッチング |
| エ 農業の「働き方改革」への取組み | |
| 【課題】 現在、町内の酪農家は家族経営が多く、人材雇用に対する酪農家の意識改革（採用・定着・作業内容等）が必要。 | 【次年度の取組み】 ・働き方改革や採用力向上セミナーの開催 ・先進地視察の開催（コロナの発生状況等を考慮して実施） |
| オ 他産地・他産業との連携による労働力確保 | |
| 【課題】 他産地や他産業と連携しやすくするために、酪農家の作業内容を細分化して酪農（農業）初心者でも参入しやすくすることが課題である。 | 【次年度の取組み】 ・酪農分野における軽作業を担う人員として、知的障害者等の派遣を福祉事業者と連携 ・酪農作業の一部を担う労働力として土木建設業作業員の派遣を連携・調整を行う ・町の機関産業に従事する漁業関係者との連携を図りたい |